

## お台場旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 秋季調査（10月）報告書

2022年11月 一般社団法人お台場海づくり協議会

### 1. 調査目的

お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や、経年変化を把握することで、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査対象地域

旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

### 3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和4年10月12日（水）	8:00～14:00	曇時々雨

### 4. 調査方法

各調査項目において、倍率8～10倍程度の双眼鏡や倍率20～60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

#### （1） 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

#### （2） ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1～2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から93日間であった(第7回夏季調査～第8回秋季調査)。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス

ラインセンサス

定点観察調査

任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

## 5. 評価方法

### (1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 8 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季

### (2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種

## 6. 調査結果

### (1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 17 科 23 種が確認された (表 4)。
- 確認種の約半数は水域及びその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやアオサギ、ハクセキレイ等の 10 種が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 6 種 (シジュウカラやヒヨドリ、メジロ等) が確認されたほか、草地環境で見られる種として 1 種 (チョウゲンボウ)、都市部で見られる種として 3 種 (ムクドリ、スズメ及びドバト)、様々な環境で見られる種として 3 種 (キジバト、トビ及びハシブトガラス) が確認された (表 4)。
- 渡り区分別にみると、留鳥 (ある地域で一年中見られる種) が 22 種と最も多く、キジバトやシジュウカラ、ハクセキレイ等が確認された。次いで冬鳥 (ある地域で冬に見られる種) が 1 種のみでセグロカモメが確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、イソシギ、ウミネコ、トビ、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ及びイソヒヨドリの合計 9 種が確認された (表 4)。島内では、護岸にとまるイソヒヨドリ、護岸にとまり休息するダイサギやコサギ、護岸で採餌するイソシギ、広葉樹林上空で採餌飛翔するトビが確認された。島内外では、西島の常緑広葉樹林から飛び出し第六台場にとまるオオタカ、上空を通過するダイサギやウミネコ、トビ、ノスリが確認された。島外では、トビを攻撃するチョウゲンボウが確認された。
- 外来種であるドバトが確認された (表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 118 個体 (表 5)、定点観察調査では合計 95 個体 (表 7) が確認された。主に護岸で休息する個体や海域を遊泳する個体、上空を通過する個体が確認された。
- 比較的確認個体数の多かった種はヒヨドリであった。船上センサスにおいて両島で合計 35 個体 (表 5)、ラインセンサスでは合計 36 個体が確認され、優占度は東島で 27%、西島で 60%を占めた (表 6)。定点観察調査では合計 39 個体 (表 7) が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や海上を集団で飛翔する個体が確認され、多くの個体が渡りと推測される。
- 護岸で昆虫類を採餌するハクセキレイが確認された。

## (2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 7 回（前回調査）と第 8 回（今回調査）の確認種数は、第 7 回では東島で 23 種、西島で 24 種、合計 27 種、第 8 回では東島で 16 種、西島で 20 種、合計 23 種であった（表 8）。第 7 回及び第 8 回で共通して確認された種は 19 種と確認種全体の 6 割ほどであり、第 7 回に比べ冬鳥の確認種数がやや少ない結果となった。第 7 回の調査時期は 10 月下旬に実施しているため、今回より冬鳥が多く渡来していたと推測される。
- 第 7 回で確認されず第 8 回で確認された種はコサギやオオタカ、チョウゲンボウ及びドバトの 4 種であり、第 7 回で確認され第 8 回で確認されなかった種はコガモ、カンムリカイツブリ、オオバン、ユリカモメ、オオセグロカモメ、ハヤブサ、モズ及びジョウビタキの 8 種であった（表 8）。コサギは、鳥の島では春季から秋季にかけて、特に夏季の記録が多い種であり、今回も少数が確認された。オオタカは、これまでの現地調査や西島の自動撮影カメラにおいて定期的に観察されていることから、餌場や休息場として鳥の島に飛来したものと考えられる。チョウゲンボウやドバト、第 7 回調査で確認されたハヤブサは、これまでも不定期的に記録されている種であり、一時的に鳥の島や周辺海域に飛来する種と考えられる。コガモやカンムリカイツブリ、オオバン、ユリカモメ、オオセグロカモメ、モズ、ジョウビタキの 7 種は、冬鳥や冬季に記録されることが多い種であり、これから冬季にかけて記録される可能性がある。
- 第 7 回より第 8 回で確認個体数が増加した種はカワウであった（表 9、10、11）。前述した通り、主に護岸で休息する個体や海域を遊泳する個体、上空を通過する個体が確認された。第 8 回では、鳥の島上空を通過して第六台場を利用するカワウが多く観察されており、これらの個体の一部が第六台場と鳥の島を往来し、休息場として利用していたことなどが、確認個体数が増加した要因と考えられる。

## (3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物) の記録を整理した結果、鳥類 3 目 3 科 4 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種、爬虫類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、ダイサギ、アオサギ及びハシブトガラスの 4 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 鳥類調査時には、爬虫類のアオダイショウ 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラにおいて、7月21日に地面を移動するキジバト、アオサギ、ダイサギ及びハシブトガラスが撮影された。いずれの種も連続して撮影されていることから、林内において採餌や休息をしていたものと推測される。
- 現地調査において、西島の低茎草地でアオダイショウの幼蛇1個体が確認された。

表4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					秋季(10月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○					
2	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
5			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
6			コサギ	留鳥	○	○				VU
7	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
8		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				*①
9			セグロカモメ	冬鳥	○	○				
10	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
11			オオタカ	留鳥		○			NT	EN
12			ノスリ	留鳥		○				CR
13	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥		○				EN
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
15		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
17		メジロ	メジロ	留鳥		○				
18		ムクドリ	ムクドリ	留鳥		○				
19		ヒタキ	イソヒヨドリ	留鳥	○					NT
20		スズメ	スズメ	留鳥	○					
21		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
22		アトリ	カワラヒワ	留鳥		○				
23	ハト	ハト	ドバト	留鳥		○				
合計	8目	17科	23種	-	16種	20種	0種	0種	1種	9種

注1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は表3に従った。

注3. 重要種選定基準④(東京都RL) \*:留意種

\*①:準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	6	0	6
2	カツオドリ	ウ	カワウ	4	114	118
3	ペリカン	サギ	アオサギ	17	9	26
4			ダイサギ	0	1	1
5	チドリ	シギ	イソシギ	2	1	3
6		カモメ	ウミネコ	0	1	1
7			セグロカモメ	1	0	1
8	タカ	タカ	トビ	0	1	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	0	3
10		シジュウカラ	シジュウカラ	1	0	1
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	29	6	35
12		セキレイ	ハクセキレイ	0	1	1
合計	6 目	10 科	12 種	63	134	197
				8 種	8 種	12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	2	13%	10	19%	12
2	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	2	4%	2
3	チドリ	シギ	イソシギ	3	20%	5	9%	8
4		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	2%	1
5	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	13%	2	4%	4
6		シジュウカラ	シジュウカラ	2	13%	0	0%	2
7		ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	27%	32	60%	36
8		スズメ	スズメ	2	13%	0	0%	2
9		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	1	2%	1
合計	4 目	9 科	9 種	15	100%	53	100%	68
				6 種		7 種		9 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				秋季(10月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	
1	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	5%	2	3%	0	0%	3
2	カツオドリ	ウ	カワウ	10	32%	2	10%	44	56%	39	62%	95
3	ペリカン	サギ	アオサギ	1	3%	1	5%	0	0%	2	3%	4
4			ダイサギ	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%	3
5			コサギ	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%	2
6	チドリ	シギ	イソシギ	4	13%	1	5%	2	3%	2	3%	9
7		カモメ	ウミネコ	0	0%	3	14%	1	1%	6	10%	10
8		セグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	
9	タカ	タカ	トビ	1	3%	1	5%	1	1%	0	0%	3
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	6%	3	14%	2	3%	5	8%	12
11		シジュウカラ	シジュウカラ	1	3%	0	0%	2	3%	2	3%	5
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	7	23%	5	24%	24	31%	3	5%	39
13		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	2
14		スズメ	スズメ	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2
15		セキレイ	ハクセキレイ	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%	3
合計	6 目	12 科	15 種	31	100%	21	100%	78	100%	63	100%	193
				11 種		11 種		8 種		10 種		15 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	
2	コガモ	○			
3	カンムリカイツブリ	○			
4	キジバト		○	○	○
5	カワウ	○	○	○	○
6	アオサギ	○	○	○	○
7	ダイサギ	○	○	○	○
8	コサギ			○	○
9	オオバン		○		
10	イソシギ	○	○	○	○
11	ユリカモメ	○	○		
12	ウミネコ	○	○	○	○
13	セグロカモメ	○	○	○	○
14	オオセグロカモメ	○	○		
15	トビ	○	○	○	○
16	オオタカ				○
17	ノスリ	○	○		○
18	チョウゲンボウ				○
19	ハヤブサ		○		
20	モズ	○			
21	ハシブトガラス	○	○	○	○
22	シジュウカラ	○	○	○	○
23	ヒヨドリ	○	○	○	○
24	メジロ	○	○		○
25	ムクドリ		○		○
26	ジョウビタキ	○	○		
27	イソヒヨドリ	○	○	○	
28	スズメ	○	○	○	
29	ハクセキレイ	○	○	○	○
30	カララヒワ	○	○		○
31	ドバト				○
合計	31 種	23 種	24 種	16 種	20 種
		27 種		23 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	2	0	6	0
2	コガモ	4	0	0	0
3	カワウ	5	2	4	114
4	アオサギ	19	3	17	9
5	ダイサギ	0	0	0	1
6	イソシギ	7	7	2	1
7	ウミネコ	0	1	0	1
8	セグロカモメ	1	0	1	0
9	オオセグロカモメ	0	2	0	0
10	トビ	0	2	0	1
11	ハシブトガラス	1	2	3	0
12	シジュウカラ	2	0	1	0
13	ヒヨドリ	3	20	29	6
14	ハクセキレイ	0	1	0	1
合計個体数		44	40	63	134
合計島別種数		9種	9種	8種	8種
合計種数		13種		12種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3~R4)				第 8 回 (R4~R5)			
		秋季(10月)				秋季(10月)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
2	カワウ	1	1%	2	4%	2	13%	10	19%
3	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%
4	イソシギ	3	3%	4	8%	3	20%	5	9%
5	ウミネコ	0	0%	1	2%	0	0%	1	2%
6	トビ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
7	モズ	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
8	ハシブトガラス	5	5%	2	4%	2	13%	2	4%
9	シジュウカラ	2	2%	2	4%	2	13%	0	0%
10	ヒヨドリ	90	82%	36	68%	4	27%	32	60%
11	スズメ	4	4%	0	0%	2	13%	0	0%
12	ハクセキレイ	1	1%	3	6%	0	0%	1	2%
13	カワラヒワ	1	1%	2	4%	0	0%	0	0%
合計	13 種	110	100%	53	100%	15	100%	53	100%
		10 種		9 種		6 種		7 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		第7回(R3~R4)								第8回(R4~R5)							
		秋季(10月)								秋季(10月)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	6%	0	0%	9	30%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	カンムリカイツブリ	3	9%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1	5%	2	3%	0	0%
4	カワウ	1	3%	6	2%	2	7%	7	13%	10	32%	2	10%	44	56%	39	62%
5	アオサギ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1	3%	1	5%	0	0%	2	3%
6	ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%
7	コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%
8	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	イソシギ	2	6%	3	1%	5	17%	4	7%	4	13%	1	5%	2	3%	2	3%
10	ウミネコ	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	3	14%	1	1%	6	10%
11	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
12	オオセグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	トビ	4	11%	1	0%	1	3%	2	4%	1	3%	1	5%	1	1%	0	0%
14	ハシブトガラス	2	6%	4	2%	4	13%	1	2%	2	6%	3	14%	2	3%	5	8%
15	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	1	3%	0	0%	2	3%	2	3%
16	ヒヨドリ	19	54%	237	91%	7	23%	37	67%	7	23%	5	24%	24	31%	3	5%
17	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
18	ジョウビタキ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	スズメ	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%
20	ハクセキレイ	0	0%	1	0%	0	0%	1	2%	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%
21	カワラヒワ	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	21種	35	100%	260	100%	30	100%	55	100%	31	100%	21	100%	78	100%	63	100%
		9種		9種		8種		8種		11種		11種		8種		10種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○								
2	ヒドリガモ									○	○				○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	ハシビロガモ												○	○	○		
6	オナガガモ				○	○	○			○				○			
7	コガモ							○						○			
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○		
9	キンクロハジロ										○						
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ホオヅロガモ													○			
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○	○			
13	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
14	ミミカイツブリ			○								○					
15	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		
16	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ゴイサギ					○											
19	ササゴイ		○														
20	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	チュウサギ									○							
23	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
25	カッコウ科の一種											○					
26	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○		
27	ヤマシギ													●			
28	タシギ								○								
29	チュウシャクシギ														○		
30	キアシシギ									○							
31	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	キョウジョシギ					○	○								○		
33	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	カモメ	○	○			○											
36	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○		
38	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○								
39	ミサゴ	○		○			○		○		○	○					
40	ハチクマ	○															
41	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	ハイタカ		○		○					○							

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
43	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●		○
44	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○		○
45	オオコノハズク														●		
46	カワセミ			○			○			○		○		○			
47	チョウゲンボウ		○				○	○									○
48	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○		
49	モズ			○	○	○	○	○	○	○				○			
50	カケス				○												
51	オナガ			○	○	○	○			○							
52	ハシトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヤマガラ											○					
54	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヒバリ						○										
56	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
57	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		
59	オオムシクイ								○				○				
60	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○
61	オオヨシキリ			○		○				○	○	○					
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○
63	コムクドリ				○	○											
64	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○		
65	アカハラ	○			○			○			○						
66	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
67	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
68	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○	○	
69	キビタキ	○				○											
70	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
71	キセキレイ			○													
72	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	セグロセキレイ				○							○					
74	タヒバリ						○				○						
75	カララヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
76	シメ							○				○					
77	ホオジロ	○		○	○			○		○							
78	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
79	オオジュリン			○						○							
80	ドバト	○	○					○		○	○	○	○	○	○		○
合計	80 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	41 種	41 種	16 種	20 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		49 種		48 種		23 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



カルガモ



カワウ



ダイサギ(重要種)



コサギ(重要種)



イソシギ(重要種)



ウミネコ(重要種)



トビ(重要種)



オオタカ(重要種)

写真 2(1) 確認された主な鳥類



写真 2(2) 確認された主な鳥類

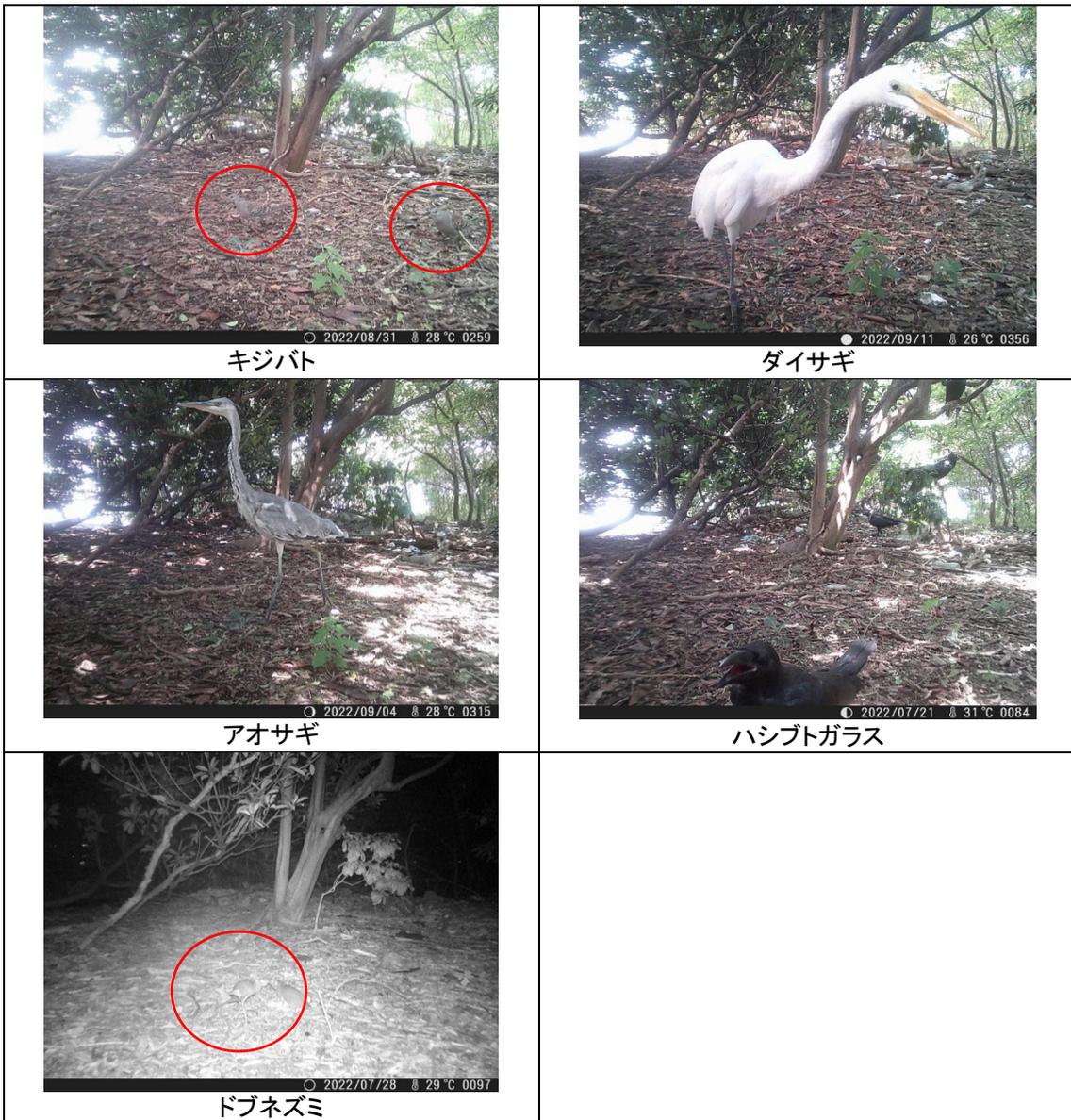


写真3 自動撮影カメラで確認された生き物